

京大探偵団

わ 環on

—話せる図書館—

「まずい、このままでは中国語の単位が……」期末試験を目前に控えた探偵君は、焦りに焦っていた。学内のどの図書館も試験勉強をする学生でいっぱい。探偵君が座れる席は残っていなかった。

「どこかに勉強できる場所はないのか？」困った探偵君は、クラスの友人に助けを求めた。

「図書館が空いてないなら『環on』に行けばいいじゃない」友人は事もなげにそう答えた。

「『環on』って何だ？」とりあえずその友人に場所を教えてもらい、扉を開けた探偵君の目に飛び込んできたのは、彼が見たこともない「図書館」だった。

「環on」は、京都大学の基本理念のひとつである「対話を根幹とした自学自習」の実現をめざして2008年4月に開館した。名称には人間・環境学研究科の「環」を用い、「人と人とがつながり、環をなし、新しい活動が生まれる空間」となることを期待し命名された。図書館であるが本は一切置かないという前提のもとに作られ、一方で無線LAN敷設によりインターネットから電子媒体の学術資料を入手できるようにした。また、グループ学習や研究会での利用に役立てるため、大きな資料を広げられるテーブルが設置されている。



▲多目的スペース

「環on」はカウンター形式の「多目的スペース」、L字型の「カウンター席」、ソファと小さなテーブルを置いた「くつろぎスペース」、ガラス製パーティションの壁で囲った「グループ学習室」の4つのエリアによって構成されている。中央には情報発信・共有のための掲示板を備えている。また、1名の大学院生が常駐しており、学習指導を受けることも可能だ。



◀カウンター席

「環on」が図書館でありながら図書館に見えないことには理由がある。実はこの「環on」、図書館を改装する業者に依頼するとあまりにも平凡な図書館になってしまうということで、普段はクラブやバーのデザインをしているデザイナーさんに設計をお願いしたのだそう。コンセプトのみ渡して「あとは好きなようにしてくれ」と頼んだところ現在のような内装になったという。蛍光灯も取り払ってスポットライトに変えたとのこと。

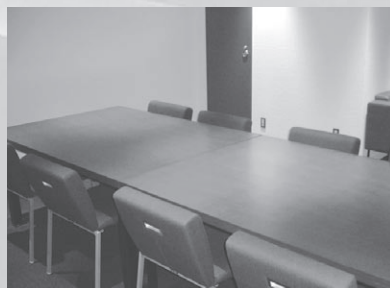


▲くつろぎスペース

普段は静かな図書館で黙って机に向かっているみなさん、たまにはちょっと違った環境で勉強してみませんか。
(remora)

「環on」では現在、ひと月に1回のペースで映画会が行われている。人環の先生を招いて映画を上映するイベントで、終了後には質疑応答や歓談の時間が設けられることも。

「環on」開館から1年が経つが、利用者数は日によってかなり変動があるとのこと。やはり試験期間には利用が集中するそう。また、最近ではグループでの時間外利用が増加しているという。



◀グループ学習室

「よし、これからは僕も『環on』で勉強するぞー」そう思いながら試験勉強に励む探偵君のもとに、例の友人がやってきた。

「おい、お前どうして試験に来なかったんだ？ 中国語は期間外試験だから今日終わっちゃったけど……」

information

開館時間	平日9:00～17:00
場所	人環・総人図書館西側向かい
貸出機器	・パソコン ・プロジェクター 人環・総人所属者のみ
時間外利用 (人環・総人所属者のみ)	
平日	17:00～20:00
土曜	10:00～15:00
※時間外利用には申請書が必要	
TEL	075-753-6524/6525

はみだし
すてーじ

漫研の原稿が間にあいません!!! (ネタ下さい)
⇒はみだしの原稿が間にあいません!!! (ネタ下さい)

(工・1 欽太郎)
(こっちもつらいんです;編)